
学園黙示録 HIGHSCHOOL OF THE DEAD ～銃鍛冶の懺悔～

イカレ帽子屋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

学園黙示録 HIGH SCHOOL OF THE DEAD
銃鍛冶の懺悔

【Nコード】

N4682V

【作者名】

イカレ帽子屋

【あらすじ】

海外で親に捨てられ、生きるためにgun smith（銃鍛冶屋）になった少年が自分の罪、そして「奴ら」と戦う物語である。

プロローグ「摂理」（前書き）

どうも、イカレ帽子屋です。

小説を書くのは初めてなのでお見苦しい所があるかも知れませんが、どうか寛容な心でお付き合い下さい。

それではプロローグということで短いですが、どうぞ！

プロローグ「摂理」

- - - - 人はいつか必ず死ぬ。

それまでにどういう風に生きるか、それが問題だ。

「悪い奴はロクな死に方をしない」とは良く言ったもんだ。

- - - - だが、今回だけはそうも言ってられない状況らしい。

善人だろうが、悪人だろうが関係なく、殆どが同じ末路を辿る。

理不尽、不条理、そんな言葉では片付けられない、そんな状況に陥
ったら自分ならどうする？戦う？逃げる？それとも - - - -
- - - - 死ぬ？

ブログ「摂理」（後書き）

いかがでしたか？

今回は短めでしたが、次回から長くしていこうと思っています。

ご意見、ご感想などありましたら、感想などに書いて貰えると嬉しいです。

第一話「遭遇」(前書き)

更新遅れました！

という訳で第一話です。
どうぞ！

第一話「遭遇」

オレには、5歳のまでの記憶がない。

分かっているのは親に捨てられたということ、そしてその親にはもう二度と会えないだろうということ。

森の中に捨てられた俺は生きるために木や石などでパチンコやナイフを作り、それで動物達を狩っていた。

――五年後、自分のまわりに食べられる動物や植物などがなくなり、とうとうもう死ぬのではないかと諦めかけていた時、森の向こうからやたらと裕福そうな男が歩いてきた。

（もう、食べ物を選んではいられない）

そう思った俺はまずはパチンコを構え、すぐに抜けるようナイフを腰に挿した。

その裕福な男の周りにはボディガードのような黒ずくめの格好の男達が六人いた。

俺は先の尖った石を六つ用意し、大きく深呼吸した後、一秒も間隔を置かずに連続で石を放った。

「がっ・・・！」

「な、なんだ！」

不意打ちということもあり、ほとんどの黒ずくめの男達は頭を貫かれて倒れた、頭を貫かれたものは即死だったが、人を食べるという恐怖のためか、六人のうち二人は肩や頬等をかすった程度だった。

すかさず腰に挿したナイフを抜き、残った二人の内、一人は首を切り裂き、一人は心臓にナイフを突き刺した。動物を狩っていたその時にその弱点等は把握しており、男達はそのまま動かなくなった。

最後に裕福そうな男に向かって走り、ナイフを突き刺そうとしたその時、男は落ち着いた仕草で脚を目の前に上げ、ナイフを刺そう走っていた俺はモロにカウンターを受けてしまった。

「あがつ……！」

あっさり腹に蹴りを受けた俺は呼吸混乱になっていた。

「動きは素早いがまだまだ甘いな」

腹を抑え、倒れている俺に見下ろすように俺は言った。

「クソオ！」

腹を抑えながら立ち上がり、再びナイフを構えた。

「ほう、その状態で立ち上がるか、まともに呼吸も出来ない癖に」

凶星だった、もしかしたら避けられるかもしれないと思っていたが、まさか反撃してくるとは微塵も思っていなかったからだ。

反撃してくる事を予想していれば腹筋を固めてダメージを軽減できたかもしれないが、そんな事は微塵も思っていなかったせいで文字通りモロに受けてしまい、呼吸混乱に陥ってしまったのだ。

「ハアアアアア！」

最後の力を振り絞り、全速力で男に接近する

「芸かないな、まったく・・・」

同じように突っ込んできた俺に対して、男は再びカウンターを狙い脚を上げた。

（今だ！）

スピードを殺さずそのまま男の脚に飛び乗り、もう片方の脚で膝蹴りをする、いわゆるシャイニングヴィザードである。

「何！？」

突然の事で、さすがに男も驚いたようだ。

「当たれええええ！」

そう叫び、力の限り脚を振った。

だが、

「ガハッ！」

気付けば俺は地面に倒れていた。

俺の叫びも虚しく、男は間一髪首を傾け膝蹴りを避けていた。

そして俺は膝蹴りの勢いでそのまま前に転倒してしまった。

「クソッ！」

すぐに立ち上がろうとしたが脚が痙攣して動かない、それに加え意識も遠退いてきた。

当然といえば当然だろう。呼吸混乱の状態であれだけ激しい動きをし、何日もまともに食事すらしていなかったのだ。

「ちきしょう……!!」

倒れた俺の瞳にはあの裕福そうな男が映る。

これが自分が見る最後の光景だと思つと、最悪だと思いながら俺は意識を手放した。

第一話「遭遇」（後書き）

はい！第一話終了です。

ついでにこの物語は転生モノではありませんので、主人公は死んでいません。

ここからどう進んでいくのか・・・それはまた、次回のお楽しみに！

追伸

面白い小説がたくさんあるのでそれを読みながら小説を書くので更新は遅くなるかもしれません。
恐れ入ります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4682v/>

学園黙示録 HIGH SCHOOL OF THE DEAD ~ 銃鍛冶の懺悔 ~

2011年10月9日11時48分発行